

下関市指定無形文化財

神事 龜山能

令和3年11月6日(土)午後1時30分

(初日) 観世流能「鵜飼」

令和3年11月7日(日)午後1時30分

(二日目) 金剛流能「枕慈童」

於 龜山八幡宮儀式殿

金剛流能「枕慈童」



拝観料

一日拝観券

二日間通し券

五、○○○円
八、○○○円

主催

龜山能楽会

下関市中之町一一一 龜山八幡宮内
電話 083-231-1323

ごあいよつ

下関市指定無形文化財・龜山能は西日

本有数の神事能で、豊臣秀吉が奉納して
以来、四百二十数年故実正しく格式高く
伝えられ、龜山八幡宮秋季例大祭を式日
として厳粛盛大に催されています。

本年は観世流・金剛流・大蔵流により
奉納されます。

関係各位のご尽瘁と、重要無形文化財
能楽（総合指定）保持者の能楽師の方々
により催能いたします。

皆さまお誘い合わせのうえ、秋のひと
とき幽玄なる龜山能をご観賞下さい。

龜山能楽会会長 山本 繩

神事翁渡式（御神前 午前十一時）

翁 宮本 隆吉 千歳 谷 弘之助
田中岱三
宮本茂樹
中野昭夫

地謡

神歌

翁 宮本 隆吉 千歳 谷 弘之助

龜山能 初日（令和三年十一月六日 午後一時三十分始曲）

（解説）

本日の能について

鶯尾世志子

和布刈 大江 泰正
通小町 大江又三郎

谷弘之助
山口剛一郎
橋本光史
今村嘉太郎

（狂言・大蔵流）

昆 布 壳 大名 秋吉 英一
昆布壳 中島 清幸

後見 川邊 宏貴

（休憩二十分）

（能・観世流）

鶯

飼

旅僧 江崎欽次郎

従僧 江崎 正左衛門

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

知英 諭

笛 左鴻

太鼓 中田 弘美

笛 左鴻

泰弘

太鼓 渡部

小鼓 古田

ごあいさつ

春の五穀祭は八丁浜、夏越祭は茅の輪くぐりと神輿海上渡御、秋の例大祭には御神幸と亀山能を氏子三大祭と称し、古くから厳修されています。

しかし昨年来、感染症のため年中の諸行事が中止、神事のみの斎行となりました事は大変残念なことでした。

そうしたなか、このたび亀山能が文化庁文化芸術活動支援事業の指定を頂き、催能されることは幸甚の至りです。

ここに、催能にご尽力賜りました亀山能楽会を始め亀山能保存会、ご協賛の皆様に心から感謝申し上げます。

亀山八幡宮宮司 竹中 恒彦

神事翁渡式（御神前 午前十二時）

歌 翁 豊嶋 幸洋 千歳 向井 弘記

地謡 谷口 豊嶋 昭嗣 敏文

翁 豊嶋 幸洋 千歳 向井 弘記

亀山能 二日目（令和三年十一月七日 午後一時三十分始曲）

（解説）

本日の能について 豊嶋 昭嗣

（仕舞・金剛流）

野 雪 八 島
守 キリ
向井 弘記
豊嶋 幸洋
豊嶋 昭嗣

谷口 雅彦
宇高 龍成
松野 恭憲
田中 敏文

（狂言・大藏流）

枕 棒
慈 紐
童 勅使
江崎 正左衛門
小鼓 成田 渡部
太鼓 奏 笛

康生 太郎冠者
川邊 宏貴
中島 清幸
英一

（休憩二十分）

（能・金剛流）

慈童 豊嶋 彌左衛門
豊嶋 幸洋 地謡
向井 弘記 谷口 宇高
豊嶋 昭嗣 松野 恭憲
田中 敏文 龍成 雅彦
翁 豊嶋 幸洋 千歳 向井 弘記
地謡 谷口 宇高
豊嶋 昭嗣 松野 恭憲
田中 敏文 龍成 雅彦

狂言 棒 紐（ぼうしばり）

留守にすると召使いたちが酒を盗み飲むと知った主人は、太郎冠者に次郎冠者（シテ）を縛る方法を相談し、さて次郎冠者を呼び出すと棒の手を使わせ、すきを見て左右にのばした両手首を棒に結んでしまふ。次いで不意に太郎冠者も後ろ手に縛つて外出する。両冠者はそれでも酒蔵へはいり、次郎冠者が棒にくられた手で酒壺から酒を汲み、太郎冠者に飲ませる。次いで酒を汲んだ杯を太郎冠者の後ろ手に持たせて自分も飲み、二人とも不自由な姿のまま踊つたり舞つたりしているところへ主人が帰宅し、召使いたちを追い込む。

能 枕慈童（まくらじどう）

中国を舞台にした唐物の曲の一つで、慈童といふ不思議な人物が主人公。酈縣山の麓に薬の水が湧き出ているというので、その源を見て参れと勅命を受けた魏の文帝の臣下は、やがて酈縣山に着き、山路へ分入つて行く。すると、とある庵の中から異様な風体の慈童が現れる。臣下は不思議に思つて尋ねると、周の穆王に召使われた慈童と名のる。周の時代といえば既に七百年の昔であるのに、今まで生きているのは化生の者であろうと怪しむが、慈童は二句の偈を書いた枕を示し、これは穆王から賜つた御枕で、この偈を菊の葉に書いておくと、その葉に置く露が滴り落ちて、不老不死の靈薬となり、それを飲んで七百年を生きながらえたと言う。そして慈童は樂を奏し、菊水の流れを汲んで臣下に勧め、自分もそれを飲むうちに醉を催し、菊の花を手折つて敷きつめた上に臥す。やがて慈童はこの靈薬による七百歳の寿命を時の帝に捧げて後、菊をかき分けて山路の仙家に帰つて行く。一面に咲き競う菊の花の中に七百歳の寿命を保つて、なお若やいだ、姿態を持つ慈童を神仙化してみせた、慶祝の趣の深い爽快な曲である。

あらすじ

神事 亀山能

亀山能の歴史は、安土桃山時代まで遡ります。

文禄元年(1593)豊臣秀吉が朝鮮出兵の為、肥前国の名護屋城に向かう途中に下関に滞在し、その時、当宮で戦勝を祈願し、陶器の獅子を奉納し、蘇鉄(太閤蘇鉄)を植えました。

その後秀吉は当宮で文禄の役の戦勝感謝と、初陣を果たした初代長府藩主毛利秀元を始め、武将の勞をねぎらう為に、能を奉納しました。

以後、秀元寄進の「翁面」をもって、秋季例大祭に神能を奉納する習わしとなりました。

日時
初日
二日目
令和3年11月6日(土)
令和3年11月7日(日)

午前11時
正午
午後1時30分
開場
神事
翁渡式
亀山能

場所
亀山八幡宮

T750-0004
下関市中之町一
電話083-231-1323

▲戦前の亀山能舞台

主催
後援

亀山能楽会

下関市・下関市教育委員会
下関商工会議所・下関市文化協会
下関市文化振興財団

下関観光コンベンション協会
KRY山口放送・tysesテレビ山口
yab山口朝日放送

読売新聞西部本社・朝日新聞社
毎日新聞社・山口新聞社
J-COM下関(順不同)

特別協賛
カメラ・ビデオの撮影はできません。

拝観料

一日拝観券

五、〇〇〇円
二日間通し券

拝観券は下記の亀山能楽会へご予約ください。
また、亀山八幡宮、ブレイガード／シーモール4F
下関商業開発・シーモール1F「ラン」・市民会館、
能楽関係者宅でも購入可能です。



◆拝観券の予約・お問合せ

拝観券の予約は、亀山能楽会へ氏名・拝観券の枚数・連絡先(Mail、電話番号)をお知らせください。
予約確認後、お支払い方法などで案内させていただきます。

亀山能楽会 TEL.083-231-1323 FAX.083-232-5365

Mail/kameyamahachimangu@theia.ocn.ne.jp

ホームページ/http://www.kameyamagu.com/

亀山八幡宮
ホームページ

